

デスペレート・リビング (1976)

DESPERATE LIVING

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 アメリカ

時間 91分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

ウォーターズ映画としては最も寓意に富んだ、しかし途方もなく下劣な問題作。ボルティモアの高級住宅地の超ノイローゼ主婦のペギーには、お医者さんごっこをする息子と娘がSEXに耽っているように思えた。優しくなだめる夫に、殺されるーと悲鳴を上げ、飛び込んできた黒人乳母のグリゼルダはケツ圧で夫を窒息死させてしまう。ベントに乗って逃げ出すと“お約束”ですぐにバイクのシェリフが不審尋問。彼のヘンタイな要求に応えた二人は見逃され、彼の予告通り、女王カーロッタが支配する“モートヴィル”にたどり着く。そこはまさに掃き溜め、人間のクズが集まるところ。二人は元悪役レスラーで性転換手術を希望する女モールが管理する借家に、ちょうど何日か前に死んだ先住者の代わりに入居する。隣人の巨乳自慢のモフィは、息子を冷蔵庫に閉じ込めてパーティをしていたベビー・シッターをドッグ・フードの皿に押しつけて殺した過去を持ち、モールとは愛し合う仲だった。女王の執政は無茶苦茶で、“逆さの日”と称して、服を反対に着たり逆向きに歩かされて、国民の間で不信感が募る。姫君ククーはヌーディスト村のクズ拾いに夢中で、それも女王の気に入らない。やがて、彼女は国中に狂犬病を流行らせて、叛徒の口を封じようとするのだが……。ディヴァインを除くウォーターズ映画の常連たちが勢揃いし、各々にビョーキ演技のしのぎを削る。特に、中産階級のひよった価値観が全ての行動基準であるペギーに扮するM・ストールの怪演が光る。

【クレジット】

監督 ジョン・ウォーターズ John Waters

製作 ジョン・ウォーターズ John Waters

脚本 ジョン・ウォーターズ John Waters

撮影 トマス・ロイゼクス

出演 リズ・レネー

ミンク・ストール Mink Stole

エディス・マッセイ Edith Massey

スーザン・ロウ